

問1 地中海沿岸で見られる農業の特色について、気候条件と栽培作物の関係を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2015年 鳥取公立入試 類似)

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 1. 夏の乾燥に耐えられるオリーブやオレンジを夏に栽培し、降水のある冬に小麦を栽培する | 2. 夏の豊富な降水量を利用して稲作を行い、冬の乾燥期には裏作として野菜を栽培する | 3. 年間を通じて冷涼な気候を利用して、作物の栽培が困難なため乳牛の飼育を主に行う | 4. 大規模な灌漑施設を整備し、夏にトウモロコシや大豆などの穀物を大量に生産する |
|---|---|---|--|

問2 1990年から2018年にかけて、日本やアメリカの二酸化炭素排出総量が増加しているにもかかわらず、世界全体に占める両国の排出割合が減少した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 奈良公立入試 類似)

- |  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| 1. 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。 | 2. 日本とアメリカが全ての化石燃料の使用を廃止し、再生可能エネルギーへの完全な転換を達成したため。 | 3. 欧州諸国における二酸化炭素の排出量が、日本やアメリカの増加分を補うほど劇的に減少したため。 | 4. 世界全体の人口が減少したことでエネルギー消費が抑制され、日本やアメリカの排出割合だけが特異的に低下したため。 |
|--|--|--|---|

問3 インドの統計において国民の約8割が信仰している宗教と、その宗教に関連する習慣や場所の組み合わせとして、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 佐賀公立入試 類似)

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 1. ヒンドゥー教の信者が、聖なる川とされるガンジス川で沐浴を行い、身を清める習慣がある。 | 2. イスラム教の信者が、唯一神への礼拝の儀式として、ガンジス川で身を清める習慣がある。 | 3. 仏教の信者が、厳しい修行の一環として、ガンジス川の流域で身を清める習慣がある。 | 4. キリスト教の信者が、聖地巡礼の儀式として、ガンジス川で洗礼と同様の行為を行う習慣がある。 |
|---|--|--|---|

問4 スウェーデン、ナイジェリア、チリ、モンゴル、メキシコの5か国の統計において、イスラム教を信仰する人々の人口に占める割合が最も高い国はどこですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- |           |           |         |         |
|-----------|-----------|---------|---------|
| 1. ナイジェリア | 2. スウェーデン | 3. メキシコ | 4. モンゴル |
|-----------|-----------|---------|---------|

問5 世界の国々では、その国の自然環境や資源の保有状況に応じて発電構成が異なります。フランスとブラジルの発電構成の特徴について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2026年 鳥取公立入試 類似)

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1. フランスは原子力発電が総発電量の約7割を占めており、ブラジルは豊かな水資源を活かした水力発電の割合が非常に高い。 | 2. フランスは北海油田の資源を利用した火力発電が中心であり、ブラジルは広大な土地を利用した太陽光発電が中心である。 | 3. フランスは偏西風を利用した風力発電の割合が世界で最も高く、ブラジルはアマゾン川のバイオマス発電が中心である。 | 4. フランスは日本と同様に火力発電が最大割合を占めており、ブラジルは原子力発電を主要な電力源としている。 |
|---|--|---|---|

問6 赤道周辺の熱帯地域において、日中の強い日差しによって地表の空気が温められ、激しい上昇気流が発生することで午後以降に降る強い雨を何と呼びますか。 (2023年 静岡公立入試 類似)

- |         |          |          |        |
|---------|----------|----------|--------|
| 1. スコール | 2. モンスーン | 3. サイクロン | 4. やませ |
|---------|----------|----------|--------|

問7 世界の農産物統計において、コーヒー豆の生産量を比較した際、年間約300万tという圧倒的な生産量を誇る国と、近年150万tを超える生産量となり急成長しているアジアの国の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2025年 埼玉公立入試 類似)

- |              |                |               |                |
|--------------|----------------|---------------|----------------|
| 1. ブラジルとベトナム | 2. ブラジルとインドネシア | 3. コロンビアとベトナム | 4. コロンビアとエチオピア |
|--------------|----------------|---------------|----------------|

問8 赤道付近に位置するある地域の気候統計において、月平均気温が一年を通じて25度から27度程度でほぼ一定であり、月間降水量が各月ともに200ミリメートルから300ミリメートル程度という極めて多い数値を示している気候区分を選択してください。 (2026年 広島公立入試 類似)

- |           |          |           |           |
|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1. 熱帯雨林気候 | 2. サバナ気候 | 3. 地中海性気候 | 4. 温暖湿潤気候 |
|-----------|----------|-----------|-----------|

問9 ある地域の気象データを確認すると、年平均気温が27.6℃に達し、月ごとの平均気温も常に25℃前後で推移しており、季節による変化がほとんど見られません。また、年間の降水量が2000mmを超えるような「高温多湿」な特徴を持つこの気候帯の名称を答えなさい。 (2017年 長野県公立入試 類似)

- |       |       |             |        |
|-------|-------|-------------|--------|
| 1. 熱帯 | 2. 温帯 | 3. 冷帯 (亜寒帯) | 4. 乾燥帯 |
|-------|-------|-------------|--------|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 夏の乾燥に耐えられるオリーブやオレンジを夏に栽培し、降水のある冬に小麦を栽培する	地中海性気候（Cs）の最大の特徴は、夏に亜熱帯高圧帯の影響を受けて雨が極端に少なくなることです。このため、地中海式農業では夏に乾燥に強い果樹、冬に降水を利用した穀物栽培という分担がなされています。選択肢にある酪農や混合農業はアルプス山脈より北側の地域（西岸海洋性気候など）でより一般的に見られる形態です。
問2	<b>答え 1</b> 中国やインドといった新興国の経済発展が目覚ましく、それらの国々の排出量の伸びが日本やアメリカを大きく上回ったため。	世界全体の二酸化炭素排出の構造は、1990年以降大きく変化しました。日本やアメリカも排出量を増やしてはいますが、それ以上に「世界の工場」として急速な成長を遂げた中国や、人口増加と工業化が進むインドなどの排出増加ペースが極めて速かったことが要因です。その結果、分母となる世界全体の排出量が膨らみ、相対的に日本やアメリカの「割合」は減少するという統計的特徴が生まれました。
問3	<b>答え 1</b> ヒンドゥー教の信者が、聖なる川とされるガンジス川で沐浴を行い、身を清める習慣がある。	インドの主要宗教であるヒンドゥー教では、生活習慣と宗教が密接に結びついています。聖地バナレス（バラナシ）などを流れるガンジス川は特に神聖視されており、川の水で「沐浴」をすることが信仰生活における重要な儀礼となっています。他の宗教もインド国内に存在しますが、ガンジス川での沐浴を最大の特徴とするのはヒンドゥー教です。
問4	<b>答え 1</b> ナイジェリア	アフリカ大陸に位置するナイジェリアは、人口の約半数がイスラム教徒であり、残りの多くがキリスト教徒です。一方、メキシコやチリ、スウェーデンはキリスト教徒の割合が高く、モンゴルは仏教（チベット仏教）が中心であるため、この5か国の中ではナイジェリアが最もイスラム教徒の人口比が高い国となります。
問5	<b>答え 1</b> フランスは原子力発電が総発電量の約7割を占めており、ブラジルは豊かな水資源を活かした水力発電の割合が非常に高い。	フランスは1970年代の石油危機以降、エネルギー自給率の向上を目的として国策で原子力発電を推進してきた経緯があります。一方、ブラジルはアマゾン川に代表される豊かな水資源と、その落差を利用できる地形条件を備えているため、古くから水力発電が電力供給の柱となっています。これらは各国のエネルギー政策や自然環境が色濃く反映された例です。
問6	<b>答え 1</b> スコール	赤道直下では連日のように強い日差しが照りつけるため、暖められた空気が急激に上昇して積乱雲を発達させます。これにより、短時間で激しく降る「スコール」という雨がもたらされます。季節風を意味するモンスーンや、熱帯低気圧であるサイクロンとは発生の仕組みが異なります。
問7	<b>答え 1</b> ブラジルとベトナム	コーヒー豆の生産量は、南アメリカのブラジルが長年世界第1位を維持しており、世界全体の生産において圧倒的なシェアを占めています。また、近年ではベトナムを中心としたアジア諸国での生産拡大が著しく、統計資料においてもベトナムは150万tを超える生産量を示し、主要な生産国としての地位を確立しています。
問8	<b>答え 1</b> 熱帯雨林気候	赤道直下の地域では、一年中太陽の高度が高いため、常に強い日射を受けます。このため、季節による気温の変化（年較差）がほとんどなく、常に高温となります。また、強い日射によって上昇気流が発生しやすいため、スコールと呼ばれる激しい雨が毎日のように降り、年間を通じて多雨となるのが特徴です。
問9	<b>答え 1</b> 熱帯	赤道に近い低緯度地域では、一年を通じて太陽の光を強く受けるため、季節を問わず気温が高い状態が維持されます。強い日射によって上昇気流が発生しやすく、スコールのような激しい雨が頻繁に降るため、年間降水量も非常に多くなるのが特徴です。